

第1回庄内地区子どもの声を聞く会

期日：平成30年2月12日（月）10:30～

場所：庄内地区公民館

1. 将来の夢

都城市立庄内小学校 6年 比江島 春日

2. 人の輪が広がる町づくり

都城市立菓子野小学校 6年 本部 涼渚

3. 元気をくれる友だち

都城市立乙房小学校 6年 福留 百香

4. 自分

都城市立庄内中学校 2年 田中 優大

5. 未来について

都城市立庄内中学校 2年 有馬 星来

「将来の夢」

都城市立庄内小学校 6年 比江島 春日

私には、夢があります。それは、宇宙飛行士になることです。私が宇宙飛行士になってやりたい事は、宇宙の事について今まで分からなかった事や発見されていなかった事を見つける事です。そして、私が見つけた事実が世の中のために役に立つようになると、よりうれしく感じます。

私が、「宇宙飛行士になりたい」という夢をもつようになったのは、幼稚園生の時です。幼かった私ですが、私のお父さんは、私に宇宙について多くの話をしてくれました。そして、話の最後には必ず、

「宇宙には、まだまだ分からないことがたくさんあるんだよ。」

と言っていました。

それを聞いた時、私は「分からないことがたくさんあるなんて面白い。宇宙の分からない事を、一つでも見つけられる存在になりたい。」と思うようになりました。

私は、宇宙飛行士になるという夢を叶えるために頑張っていることがあります。それは、英語と算数の勉強です。宇宙飛行士になるのは、調べてみたらとても難しい事を知りました。たくさんの知識と技術がいる事も分かりました。そのため、勉強はかなり頑張らないといけないと思っています。特に、英語と算数の勉強は大事だと思います。

宇宙飛行士は、海外の人たちと一緒に仕事をする事がとても多いです。平成10年、日本人初の女性宇宙飛行士の「向井千秋さん」の時もスペースシャトルの乗組員は7人中6人が外国の人でした。宇宙飛行士の仕事は、宇宙にいる人たちとのコミュニケーションを取る事も大事な仕事のひとつだと思います。そのため、英語をすらすらとしゃべれるように今、私は英会話の習い事をしています。英語は難しいけれど、様々な人種や民族の人と話ができることは、とても楽しそうなので、頑張りたいと思います。

算数は、計算を早くすらすらとできるようにしたり、計算の公式をしっかりと覚えて計算ミスをしないように努力したりしています。宇宙では、安定感のない中で実験をしたり、宇宙船の外に出て作業をしたりします。少しのミスも許される仕事ではないと思います。そのため、私は、今から計算などのミスをせずに慎重に物事に取り組む事に心がけていこうと思っています。

これから、中学校に行って様々な人たちと出会い、様々な体験や経験をしていくことで自分の夢が変わるかもしれません。しかし、夢をもつ事、努力をする事は、これからも変わらずに続けていきたいと思います。

人の輪が広がる町づくり

都城市立菓子野小学校 6年 本部 涼渚

みなさんは、町の人とすれちがうときに、あいさつをしたり、話をしたりするといった交流をしていますか。私は、町の人とすれちがっても、共通の話題がなく、あいさつだけしかできていません。しかし、町の人同士のふれあいが増えると、もっと楽しく明るい町になるのではないのでしょうか。そこで、私がえがいた町の未来の姿は、「町の人たちが積極的にふれあい、人の輪が広がる町」です。このような町を目指すために、何ができるのでしょうか。

まず私は、他の地域の取組について調べてみました。一つ目は、広島県尾道市の取組です。この地域では、町の人が小学校で小学生と一緒に給食を食べて交友を深めているそうです。私がいる菓子野小学校でもオープンスクールの際に、地域の人と一緒に給食を食べています。食べながら、食べ物の話をしたり、地域の話をしたり、昔の話をしてくださったりしています。ふだん、できない話がいろいろできるので、そのあと、地域で会ったときも、以前より気軽に話ができるなと思いました。もっとこのような機会が増えると、人の輪が広がっていくと思います。

二つ目は、宮崎県綾町の取組です。ここでは「ふれあいイキイキサロン」といって、公民館や学校の体育館を利用して、地域の人がレクレーションやおしゃべりをするなど、交友を深めているそうです。小学校から高れい者まで、いろんな年齢の人たちが交流できる場になっています。ふだんは、あまりふれあい機会のない小学生と高れい者が一緒に楽しめるところがよいなと思いました。インターネットで写真も見ましたが、イキイキサロンにいる人たちみんなが笑顔で、とても楽しそうだなと思いました。

調べた事を参考にして、「町の人たちが積極的にふれあい、人の輪が広がる町」を実現するために、二つの提案をします。

一つ目は、町の人たちと小学生や中学生が、学校で一緒に給食を食べる機会

を増やすことです。学校の給食を通じて町の人たちと小学生や中学生が仲よくなれば、人の輪がぐんと広がっていくと思います。

二つ目は、「ふれあいイキイキサロン」のように、町の人たちがレクレーションやおしゃべりなどで交流することです。町の人たちがだれでも気軽に立ち寄れる場所があると、出会いの場が増え、人と人がつながっていくと思います。レクレーションは、地域の公民館や公園で行うとよいと思います。

このような取組を進めることで、コミュニケーションが増え、人の輪が広がり、笑顔があふれる町になるのではないのでしょうか。まずは、この庄内地区から輪を広げ、笑顔あふれる町にしていきたいと思います。

「元気をくれる友だち」

都城市立乙房小学校 6年 福留 百香

私が皆さんに伝えたいのは、私に元気をくれる友だちのことです。私は、毎週金曜日に習字を習っています。私には、一緒に習字を習っている友だちが5人います。この5人の友だちはとても明るく面白いです。私がかかっている時に、この友だちに話を聞いてもらおうと、とても元気が出ます。

ある日のことです。その日の学校生活は、とてもハードなものでした。普通の授業に加え、三味線の練習をする伝承研やクラブ活動などいろいろなことがあり、とてもつかれていました。もちろん友だちも、同じような日を過ごしていました。しかし、その友だちは、つかれているにもかかわらず、私の話をたくさん聞いてくれ、楽しい話をしてはげましてくれました。帰り道も、友だちの1人がたくさん話を聞いてくれました。そのおかげで、私は家に着くころにはとても元気になっていました。

友だちは、いつも元気を与えてくれます。例えば、その日にあった出来事を楽しく話してくれたり、それに対して自分はこう思うなあと言わせてくれるようなことを言ったり、学校であったことをジェスチャーしながら面白おかしく再現してくれたりします。みんなを楽しませてくれるような気持ちが伝わってきて、聞いている人はみんな自然と笑顔になっていきます。

それに元気にしてくれるだけでなく、何か学校で失敗したり、いやなことがあったりした時はたくさんはげましてくれます。私には、そのはげましの中で

心に残っているものがあります。それは学校で友だちと意見が合わず口げんかをしてしまった日のことでした。その人は学校でも、学校以外でも、たくさん遊んでくれる友だちということもあり、習字教室に着くころには、私はとても落ちこんでいました。その時、5人の友だちは、私に優しく落ちこんでいる理由を聞いてくれました。そして1人の友だちが、

「思っていることや考えていることは、人それぞれだから別に気にしなくてもいいと思うよ。」

と、言ってくれました。他の4人の友だちも、

「そうだよ。気にしないでいいよ！あと、口げんかした友だちも多分気にしていないと思うよ。」

と、たくさんはげましてくれました。私はこの言葉がとってもうれしかったです。その後、けんかした友だちとは仲直りし、今ではたくさんいっしょに遊んでいます。私は、この5人に対してとても感謝しています。

これから、私は周りの人の気持ちをよく考えて行動することを心がけていきます。今回とりあげたエピソードのようなことをすると、周りの人は元気になると思うし、私自身もうれしくなります。だから自分のことだけでなく、他の人の気持ちも考えて、友だちが困っていたり、悩んでいたたり落ちこんでいる時には、声をかけてあげたり話を聞いてあげたり、はげましてあげたりできるような人になりたいと強く思っています。

「自分」

都城市立庄内中学校 2年 田中 優大

生まれてから、14年が過ぎ、月日が経つのは、とても早いなと思います。その中で、生まれてから4歳ぐらいまでのことは、あまり記憶がありません。いつ、どのようにして立ち、そして、歩けるようになったか覚えていませんが、いつの間にか成長し、今に至っています。

中学生になり、英語で話すことに手こずっていますが、日本語については、頭の中には何もない状態から始め、今では完璧とは言えないまでも、人並み程度には話せるようになっています。

そんな僕もいよいよ受験生になり、自分で決めた道を歩み出しています。以

前までの僕なら、「勉強は何のためにするのか」という問いに対して、「受験に合格するため」と答えていたと思います。しかし、今、それは少し違うかなと思います。勉強は、自分の夢を実現するための一つの手段であり、受験で合格することは、あくまで通過点に過ぎません。

よくテレビ番組などで、有名な会社の社長や成功した人たちの逸話を見ることがありますが、その人たちの多くは、たとえ苦難にぶつかろうとも、その苦難を乗り越え、逆に苦難を楽しんでいるかのように思えます。そんな姿を見らうち、僕もそういう生き方をしたいと思うようになりました。

ところで、僕の尊敬する人は、スティーブ・ジョブスです。彼は、どんな状況でも、自分の信念を貫き、アップル社を世界的な大企業へと成長させました。時には、人に嫌がられても、自分の信念を曲げなかったジョブスに僕はあこがれています。そして、見習いたいと思っています。

そこで、僕は、他人の意見に流されず、自分自身のしっかりとした考えを持ち、それを発信していこうと思います。そして、信念をもって、僕を信じてくれる人たちを大切にしながら、これから精一杯努力していきたくと思います。また、最初は僕のことを嫌っていた人も、やがて僕の良き理解者になってもらえるような、そんな人間に成長していきたくと思います。

「未来について」

都城市立庄内中学校 2年 有馬 星来

何かを成し遂げるためには、努力をしなければならないとよく言われます。この「努力」という言葉の意味は、ある目的に対して一生懸命に努めるということです。私は、これからの人生、この努力という言葉をしっかり胸に刻み込んで、こつこつと頑張っていきたいと思っています。

では、なぜ、この努力という言葉なのかというと、それは次の二つの理由からです。私は、現在ソフトテニス部に所属しています。これまでたくさんの練習を積み重ね、数多くの練習試合も行ってきましたが、まだ自分の思うようなプレーができていません。だから、もっと努力して、3年生最後の中体連の大会では、団体戦でも個人戦でも県大会出場を果たし、出場できる喜びをチームの仲間と共に分かち合いたいと思っています。

次に、もう一つの理由は、勉強のことです。私は、残念ながら苦手意識のある教科があるのですが、その教科で分からないところがあると、「難しい」とか、「また今度」とか言って逃げてしまうことがあります。それでは、ますます苦手意識が強くなり、さらには、理解もおぼつかなくなってしまうので、苦手なところをきちんと勉強して、全ての教科が得意になるようにしていきたいと思います。

ところで、いよいよ4月から3年生になります。最上級生として、庄内中の顔として、下級生を引っ張っていかなければならない立場になります。良き先輩になれるように、自分に厳しく、さらなる努力を続けていきたいと思えます。

それと同時に、私の夢の実現に向けても頑張っていきたいと思えます。私の夢は、「理学療法士」になることです。今年の5月には、都城市内に4年生の専門学校ができます。私は、4年後、その専門学校に入学できるように、まずは志望する高校に入学するための勉強をしっかりと行っていきたいと思えます。これから先、困難なことや達成できて嬉しかったことなど、さまざまなきごとがあると思えます。失敗を何回かするかもしれませんが、しかしながら、どんなことがあっても、頑張れば努力すれば、必ずその努力は報われるということを感じていきたいと思えます。そして、「理学療法士」になるという夢に向かって、一歩ずつ努力を続けていきたいと強く思えます。